

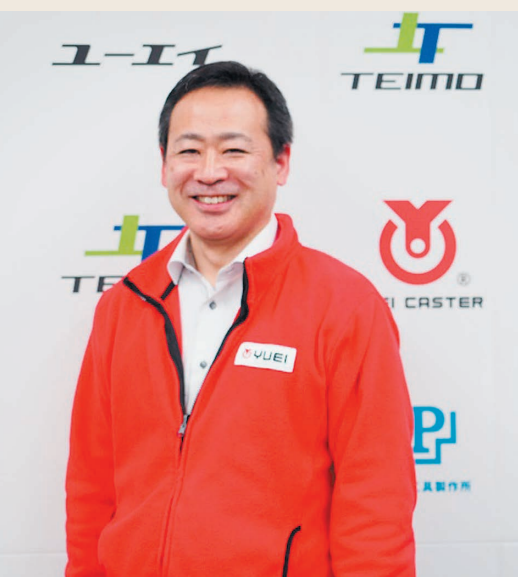
縁の下の力持ちとして

ものづくりの足回りを支える

株式会社 ユーエイ



日本トップクラスのキャスターメーカーとして、また、機械工具専門商社として世界のモノづくりを2つの側面から支えている株式会社ユーエイ。同社は、『お客様の声を“カタチ”に、新たな価値を“機能”に』をスローガンに様々な現場での課題解決や、新たな価値創造に取り組んでいます。今回は代表取締役社長の雄島耕太氏にお話を伺いました。



2017年に開設した
最新の関東工場（埼玉県飯能市）

株式会社ユーエイ

代表取締役社長：雄島 耕太 氏

本社：東大阪市本庄西1丁目8-39

設立：1977年（昭和52年）

従業員数：500名

事業内容：キャスター及び関連商品の開発、
製造、販売
各種工作機械及び工業機器・用品の卸売、部品加工

― 後発キャスターメーカーとして

1977年におじま興商(株)からメーカー部門を独立させ、(株)ユーエイキャスターとして設立したのが当社のはじまりです。2018年には、関連会社で機械工具商社のO.T.ファテック(株)と合併し、今の社名である(株)ユーエイになりました。現在は、日本トップクラスのキャスターメーカー、そして機械工具専門商社という2つの側面から世界のものづくりを支えています。ちなみに、当社設立後、日本では新規のキャスターメーカーは誕生していないので、キャスター業界においては、最後発メーカーです。

設立当時、すでに当社より大きいキャスターメーカーが複数あったこともあり、商社などで商品を扱ってもらうことが難しく苦労しました。そこで、状況を打開するため目をつけたのが、他社の手がけていない特注品への対応でした。顧客訪問を重ねる中で、お客様がキャスターに対して求めるニーズ（衝撃吸収・消音・耐寒性など）は業種や使用環境面などによって異なることに気づいたことがきっかけでした。

特注品は納期が厳しい場合が多く、開発期間も十分に確保できないため、当初はととても大変でした。各社各様の期待に応え続けた結果、今では開発した製品の数4000種、取り扱う製品数は6000種以上になりました。

― 経営者となるための土台づくり

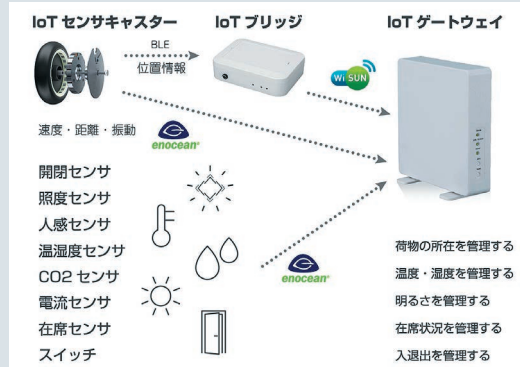
私が当社に入社し、最初に配属されたのは、奈良工場の製造部でした。そこで2年間生産現場の経験を積んだのち、当社2番目の工場として設立したばかりの福岡工場に工場長として赴任しました。福岡工場は、高卒の新入社員8名と中途採用の2名、それに入社3年目で24歳の私を加えた11人でスタートしました。設立当初は、バブル崩壊後の不景気と重なり、生産するものがなく辛い日々でした。また、高校を卒業したばかりの若い社員を社会人として成長させるため、工場長としてどのように行動すべきか試行錯誤する日々でした。今となっては良い思い出ですが、出社してこない従業員の家まで行き、一緒に出社させたことなどもありました。あきらめずに向き合う姿勢を学びました。それでも3年ほどで何とか軌道に乗せることができ、私が福岡を離れるころには活気あふれる工場になりました。ちなみに現在の福岡工場の工場長は、工場設立時のメンバー11名のうちの1人です。福岡での8年間は、私自身にとって、経営者となる上でとても良い経験になりました。

― 品質をあげるための取り組み

福岡から戻ると、奈良工場の工場長に着任しました。まず、取り組んだのが製品品質の追求でした。部品の

運搬機器の稼働状況が把握できる 「ユーエイ・ツナガル・システム」

ユーエイ・ツナガル・システムは、自己発電する電力を使ってセンサデータを送信することができる「IoTセンサキャスター」のほか、「温度・湿度センサ」「CO2センサ」「照度センサ」「電流センサ」「人感センサ」「在席センサ」「開閉センサ」「ON・OFFスイッチ」など様々なEnOceanセンサを活用できるIoTネットワークシステムです。

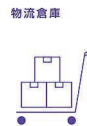


Smart Factory



【生産効率の改善】
台車の位置検知により、資材のライン投入を管理し、作業時間を可視化。生産効率の改善を図れます。

Smart Logistics



【稼働管理の管理】
台車の稼働エリアをモニタリングし、適切な運用管理により、台車の稼働状況を把握。生産性の向上を図れます。

Smart Store



【購買行動の分析】
お客さまの滞在時間や、売場到達率を分析し、レイアウトの改善や、効率的な品出しが可能となり、購買意欲を高める売り場づくりを図れます。

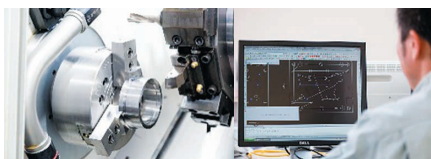
Smart Medical



【リハビリの管理】
歩行距離の移動距離を蓄積し、リハビリの進捗を管理。また、移動補助具の位置を把握することで、業務負担の軽減につながります。

一つ一つを公差から見直し、精度を一桁あげていく取り組みを始めました。

その結果、金型設計製作から、プレス加工、樹脂成形などを内製化し、キャスター製作に必要な部品から最終製品までを自社で一貫生産できる体制を整えました。



— 金型も自社開発 —
要求仕様に合わせて、最適なパーツを設計し、自社で金型を製作している

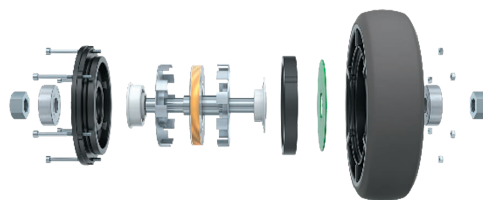
— 新商品開発への取り組みについて

当社では新製品開発部を設け、日々開発に取り組んでいます。その中で生まれた商品の1つが「段差乗り越えキャスター」です。この商品は、運搬台車使用時の作業負担の軽減や、業務効率の向上を求め、お客様の声をきっかけに開発した



段差乗り越えキャスター商品です。商品名の通り、高さ約4cmまでの段差なら簡単に乗り越えることができ、展示会の来場者に体感していただくこと必ずつまみれる商品です。

そして、次世代のキャスターとして開発したのが、「IoTセンサキャスター」です。



IoTセンサキャスター 内部図

このキャスターはホールセンサと加速度センサを内蔵することにより、運搬機器の走行距離と走行スピードおよび振動の計測を可能にしたものです。

たとえば、物流倉庫や運搬工数の多い工場内において稼働が集中する時間をひと目で分かるようにできたり、稼働率も時間単位で把握することが可能となります。それにより、時間ごとや曜日ごとに運搬機器の稼働状態や傾向を分析でき、運搬機器の配置エリアや設置台数の最適化を実現できます。

また、内部には電磁誘導コイルとマグネットを搭載しているため、自転車のライトのように車輪の回転によって電気をつくり出します。そのため、センサと通信デバイスはバッテリーレスで稼働でき、電池交換は不要です。

— 世界を動かす感動づくり

冒頭に紹介しましたが、合併によって当社は「キャスター事業」と「機械

工具事業」の2つの事業を扱うことになりました。まずは合併のシナジー効果を最大限に生み出すことに集中して取り組み、会社全体として売上を伸ばしていきたいと思っています。

また、おかげ様で、当社は今年で設立から45年を迎えることができました。

しかし、まだまだ発展途上であり、100年以上続くキャスターメーカーになれるよう頑張りたいと思っています。そのためには常に新しいことを取り入れていかなければなりません。「世界中にまだないキャスターをつくる」という目標のため、社員が気軽に提案できるような雰囲気や環境を整えたいと思っています。また、同じ性能・価格なら、「かっこよさ」にこだわっていきなす。技術者にデザインセンスを磨いてもらうため、優れたデザインのものを分野を問わず、社内に飾ったりしたいと考えています。

何事もやればできる！その想いで全社員一丸となり、お客様のご要望にただひたすら応えてこれまで進んできました。これからも、この姿勢を継続し、ものづくりの足回りを支える縁の下で力持ちとして新しい価値を提供していきたいと思っています。

— 貴重なお話をいただき、
誠にありがとうございました